

午後 試験

いずれの問もシステムの管理・運用の実務に密着した事項をテーマとしている。論述内容はほぼ期待どおりであったが、設問の趣旨を理解せずに論述を進めたものや、問題文中のすべての例を転記しただけのものが目についた。設問の趣旨を踏まえた上で、受験者の独自の視点も加味した論述を期待したい。また、試験を機に出題テーマのような基本事項について、知識・技術を改めて整理し、業務スキル向上の一助とされることを期待する。

問 1（SLA に基づく情報システムの運用について）では、合意された SLA を遵守するためのプロセスを実行する際に発生した問題と解決策について論述することを求めた。問題については具体的に論述しているものの、解決策に説得性のないものや工夫の伺えないものが見受けられた。自ら率先して問題の解決に取り組んだ経験がないと、この部分の論述は難しかったものと思われる。

問 2（システム運用管理ツールの導入準備について）では、ツール導入の準備作業時に発生した問題とその解決策について論述することを求めた。担当した準備作業の説明に終始し、発生した問題とその解決策に触れていない論述が見受けられた。このような論述では、設問アで運用管理業務における課題や目標が明確になっていないものが多く、これらに取り組むに当たって問題が発見できなかったのではないかと推測する。

問 3（システム障害の長時間化の防止策について）では、システム障害が長時間化した原因の究明と防止策について論述することを求めた。本問は選択率が高く、長時間化の防止に対する関心の高さがうかがえた。障害の原因や障害への対応状況を詳しく述べただけの論述や、長時間化した原因と防止策を論じているものの原因究明の視点がはっきりしない論述が少なからず見受けられた。長時間化の防止に主体的に取り組んだ経験がないと本問は難しかったようである。